

(15) こまつな

| 防除法 病害虫名 | 防除のポイント | 薬 剤 防 除 | | |
|---|--|------------------------------------|---|--|
| | | 防除時期 | RACコード | 薬 剤 |
| 1 軟腐病 <i>Pectobacterium carotovorum</i> | 1. 連作を避ける。 2. 窒素肥料の過剰施肥を避け、適正施肥をする。 3. 排水を良好にする。 4. 発病株は早期に処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 病原細菌は害虫（キスジノミハムシ、ヨトウムシ類）の加害傷口から侵入するので、害虫を防除する。 2. コサイド3000とZボルドーは、黒腐病にも登録がある。 | 発病前から | M1 M1 M1 | ド イ ツ ボ ル ド ー A Z ボ ル ド ー コ サ イ ド 3 0 0 0 |
| 2 萎黄病 <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>rapae</i> | 1. 発病株は早めに抜き取り、圃場外に持ち出し、処分する。 2. 抵抗性品種または耐病性品種を使用する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2. 本病対象に防除を実施しているところでは、苗立枯病の発生が少ない。 | 播種10日前まで | — — | ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤 |
| 3 根こぶ病 | 1. 苗床は無病な土を使用する。 2. 前年発生したところでは連作を避け、アブラナ科以外の作物との3年以上の輪作をする。 3. 石灰窒素を施用し、土壌の酸度を6以上に矯正する。 4. 圃場の排水を良好にし、低湿地や排水不良地での作付けを避ける。 5. 発病株は根部を含めて、完全に除去する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 土壌消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。 | 土 壌 消 毒 | — — | ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤 |
| | | 播 種 前 | 29 | フ ロ ン サ イ ド 粉 剤 |
| | | 播種または定植前 | 21 21 36 36 | オ ラ ク ル 顆 粒 水 和 剤 オ ラ ク ル 粉 剤 ネ ビ ジ ン 粉 剤 ネ ビ リ ユ ウ |
| | | 4 白さび病 <i>Albugo macrospora</i> | 1. 排水を良好にし、過湿を避ける。 2. 過繁茂しないよう、播種量を適正にする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アミスター20フロアブルは、移植栽培の場合は育苗期に使用する。 | 播 種 前 |
| 5 コナガ | 1. 防虫ネット（2mm目合以下）で被覆する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. カスケード乳剤はアオムシ、マメハモグリバエにも登録がある。 2. スピノエース顆粒水和剤はハモグリバエ類、ハイマダラノメイガにも登録がある。 | 播 種 時 | 4A | モ ス ピ ラ ン 粒 剤 |
| | | 発 生 初 期 | 5 5 6 6 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 13 15 22B 28 UN | ス ピ ノ エ ー ス 顆 粒 水 和 剤 デ イ ア ナ S C ア フ ェ ー ム 乳 剤 ア ニ キ 乳 剤 ト ア ロ ー 水 和 剤 C T ト ア ロ ー フ ロ ア ブ ル C T バ シ レ ッ ク ス 水 和 剤 ゼ ン タ ー リ 顆 粒 水 和 剤 デ ル フ ィ ン 顆 粒 水 和 剤 エ ス マ ル ク D F フ ロ ー バ ッ ク D F エ コ マ ス タ ー B T チ ュ ー ン ア ッ プ 顆 粒 水 和 剤 サ ブ リ ナ フ ロ ア ブ ル ジ ャ ッ ク ポ ッ ト 顆 粒 水 和 剤 コ テ ツ フ ロ ア ブ ル カ ス ケ ー ド 乳 剤 ア ク セ ル フ ロ ア ブ ル プ レ バ ソ ン フ ロ ア ブ ル 5 プ レ オ フ ロ ア ブ ル |
| 6 ハスモンヨトウ | 1. 育苗床では防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 3. 防虫ネット（4mm目合以下）等でトンネル被覆すれば、飛来、産卵を防止できる。 | 若 齢 幼 虫 期 | 6 | ア ニ キ 乳 剤 |

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

こまつな

| 防除法 | 防除のポイント | 薬 剤 防 除 | | |
|--------------------------|---|-----------|----------------------------|--|
| | | 防除時期 | RACコード | 薬 剤 |
| 7 ヨトウムシ | 1. 育苗床では防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 3. 防虫ネット（4mm目合以下）等でトンネル被覆すれば、飛来、産卵を防止できる。 （薬剤使用の特記事項） 1. スピノエース顆粒水和剤はハモグリバエ類、ハイマダラノメイガにも登録がある | 若 齢 幼 虫 期 | 5 | スピノエース顆粒水和剤 |
| 8 アオムシ | 1. 育苗床では防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 幼虫は見つけしだい捕殺する。 （薬剤使用の特記事項） 1. スピノエース顆粒水和剤はハイマダラノメイガにも登録がある。 | 発 生 初 期 | 5 13 | スピノエース顆粒水和剤 コテツフロアブル |
| 9 アブラムシ類 | 1. 周辺雑草を防除する。 2. 施設栽培の場合、飛び込み防止のための防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 3. 施設周辺にシルバーテープをはる。 | 播 種 時 | 4A 4A 4A 4A 4A | モスピラン粒剤 ダントツ粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤 アクタラ粒剤 5 |
| | | 発 生 初 期 | 3A 4A 4A 4A 29 | アグロスリン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 ウララ D F |
| 10 キスジノミハムシ | 1. 育苗床では防虫ネット（0.8mm目合以下）で被覆する。 2. アブラナ科野菜の連作を避ける。 | 播 種 前 | 3A | フォー ス 粒 剤 |
| | | 播 種 時 | 4A 4A | アルバリン粒剤 スタークル粒剤 |
| | | 発 生 初 期 | 4A 4A 4A 6 22B | モスピラン顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 ア ニ キ 乳 剤 アクセルフロアブル |
| 11 ハモグリバエ類 | 1. 周辺雑草を防除する。 2. 飛び込み軽減のため防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 | 発 生 初 期 | 5 6 | スピノエース顆粒水和剤 ア ニ キ 乳 剤 |
| 12 コガネムシ類幼虫 | 1. 発生の少ない圃場では、被害株の周辺を掘り起こして幼虫を捕殺する。 2. コガネムシ類の産卵場所になるので、堆肥や有機物の野積みは控える。 | | | |
| 13 ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ | 1. 水田への転換可能などところでは1～2年畑を水田化する。 | | | |
| 14 アザミウマ類 | 1. 紫外線反射資材を用いると、成虫の飛来を軽減することができる。 2. 育苗床では防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 | 発 生 初 期 | 5 5 | デ イ ア ナ S C スピノエース顆粒水和剤 |

(16) み ず な

| 防除法 | 防除のポイント | 薬 剤 防 除 | | |
|---|--|--------------------------|--------|-----------------|
| | | 防除時期 | RACコード | 薬 剤 |
| 1 黒腐病 <i>Xanthomonas campestris</i> pv. <i>campestris</i> | 1. 連作すると多発するので、アブラナ科以外の作物と最低2年輪作する。 2. 発病株を除去し、収穫後の残茎葉は集め | 初発から 3～4回 | M1 | コ サ イ ド 3 0 0 0 |
| 2 軟腐病 <i>Pectobacterium carotovorum</i> | 1. 抵抗性品種を用いる。 2. 4～5年輪作にし、イネ科、マメ科の作物を作る。 3. 早播きものは防虫ネットで被覆する。 4. 軟腐病菌は害虫の加害痕など、傷口から感染するので、害虫の防除を行う。 | 本葉9～10 枚のころから 2～3回 | M1 | コ サ イ ド 3 0 0 0 |

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

みずな

| 防除法 病害虫名 | 防除のポイント | 薬 剤 防 除 | | |
|------------------------------------|--|-----------------------|--|--|
| | | 防除時期 | RACコード | 薬 剤 |
| 3 白さび病 <i>Albugo macrospora</i> | 1.排水を良好にし、過湿を避ける。 2.密植したり、過繁茂にならないようにする。 3.窒素過多にしない。 4.マルチ栽培を行う。 5.被害茎葉は集めて圃場外に持ち出し、処分する。 6.アブラナ科野菜の連作を避ける。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.アミスター20フロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は葉害のおそれがあるので使用しない。 | 播種時または定植前 (全面土壌混和) | 11・4 | (混)ユニフォーム粒剤 |
| | | 発病初期 | 11 21 21 | アミスター20フロアブル ランマンフロアブル ライメイフロアブル |
| 4 炭疽病 | 1.ポリマルチや敷わらを行う。 2.排水をよくする。 3.窒素肥料の多用を避ける。 4.被害果や被害葉は除去し、処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.ベンレート水和剤は白斑病にも登録がある。 | 発病初期 | 1 | ベンレート水和剤 |
| 5 立枯病 <i>Pythium sp.</i> | 1.圃場を水田にするなど、湛水処理をする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.土壌消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。 | 土壌消毒 | — — | ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤 |
| | | 播種時 | M5 | ダコニール1000 |
| 6 アブラムシ類 | 1.周辺雑草を防除する。 2.育苗床では防虫ネット(1mm目合以下)で被覆する。 3.周囲にシルバーテープをはる。 4.シルバーマルチをする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.アディオン乳剤はダイコンハムシ、ヤサイゾウムシにも登録がある。 | 播種時 | 4A 4A 4A | モスピラン粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤 |
| | | 発生初期 | 1B 3A 4A 4A 4A 4A 4A 29 | ジェイエース水溶剤 アディオン乳剤 アドマイヤーフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 ウララD F |
| 7 コナガ | 1.育苗床では防虫ネット(2mm目合以下)で被覆する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.カスケード乳剤はアオムシにも登録がある。 2.アフファーム乳剤はアオムシ、アザミウマ類、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、ハモグリバエ類にも登録がある。 3.プレオフロアブルは浸透移行性に乏しいので、かけムラのないように散布する。 | 発生初期 (若齢幼虫期) | 5 6 6 13 15 22B 28 UN | スピノエース顆粒水和剤 アフファーム乳剤 アニキ乳剤 コテツフロアブル カスケード乳剤 アクセルフロアブル プレバソンフロアブル5 プレオフロアブル |
| 8 キスジノミハムシ | 1.育苗床では防虫ネット(0.8mm目合以下)で被覆する。 2.アブラナ科野菜の連作を避ける。 | 播種前 | 3A | フォー ス 粒 剤 |
| | | 播種時 | 4A 4A | アルバリン粒剤 スタークル粒剤 |
| | | 発生初期 | 4A 6 22B | モスピラン顆粒水溶剤 アニキ乳剤 アクセルフロアブル |
| 9 ネキリムシ類 | 1.被害株周辺土中の幼虫が潜む穴を見つけ、捕殺する。 2.作付け前の圃場の除草処理を徹底する。 | 播種前 | 3A | フォー ス 粒 剤 |

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する